



さが

第一二七号

令和 七年

西暦 二〇二五年

秋 彼岸 九月 号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一
TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三一-五七二五

E-MAIL sanga@tounji.net



七月のお盆法要の折り、先代、泰明東堂の七回忌をお勤めいたしました。お参りくださったみなさまに、あらためてお礼を申し上げます。

こういう年回のご法事は、規模の大小はありますが、みなさまにも馴染みのあるものかと思えます。

私たちにとってご法事は、仏さまのお弟子として歩き出された故人の、さらなる安念を願いつつ、故人との縁を、また新しい気持ちで感じられる機会です。

仏教の儀礼としては、ご葬儀のあと、初七日や忌明けの法要、一周忌やその後の年回など、何度となく、供養をお勤めするタイミングがやって来ます。

そのタイミングについて少し調べてみますと、興味深いことが見つかっているようです。

それは、赤ちゃんが生まれてから行われる、昔ながらのいろいろな行事と、人が亡くなってからのいろいろな行事と、タイミングの重なりが多いことです。

たとえば、

七日目の、お七夜と初七日

百日目の、お食い初めと百か日

一年目は、初誕生と一周忌

七五三と、三回忌や七回忌

十三年目は、元服と十三回忌

などなど。

ほかに、お宮参りと忌明け（三十五日や四十九日）も近い日程と言えますね。

慶弔の違いはあれども、子どももの健やかな成長を願う気持ちと、故人の安らかな道行きを祈る気持ちには、共通するところがあるのかも知れません。

そんな願いをかなえるために、伝統的な行事や儀礼が、ずっと昔からなされてきたのでしょう。



先代、泰明東堂の七回忌では、ご本尊さまの前に、「頂相（ちんそう）」という大きな軸を、かけてお勤めいたしました。泰明東堂の姿の上に、「遺偈（ゆいげ）」と呼ばれる漢詩を書いたものです。

遺偈は主に禅宗のたしなみで、自身の境界や心境を、遺言として遺す漢詩のことです。

ここでは、「平常無事 八十五年 翻身帰去 独歩青天」と示されています。

「数え八十五年の生涯を、こだわることなく生きてきた。いま、生前の身を翻して仏さまのもとに去るが、からっとした快晴の空を、ひとり歩いていくようなものだ」というような解釈が、できると思います。

残された私たちは、この遺偈から学び、日々の糧にすることで、その恩に報いることとなります。



秋の団参のご案内

恒例の参拝旅行、今年は大本山永平寺です。みなさまの、ご先祖さまの供養法要をお勤めします。臨済宗大安寺にもお参りし、ご法話を拝聴します。

日時 11月12日（水）～13日（木）

宿泊 山代温泉「森の栖」

参加費 三五、〇〇〇円

（永平寺での供養料含む）

締め切りは9月末日です。

募集のパンフレットこちらから↓



「お寺ライン」ご活用ください

ご法事のお申し込みや、仏事のご相談など、ぜひ「ライン公式アカウント」をお使いください。

普通のラインと同じように「チャット機能」を使って、住職と直接のやりとりができます。



↑のQRコードから、
どうぞご登録ください。



↑お寺の日常



↑ホームページ